まちづくりニュース

ホームページ
https://tokiwadai.net/

215号
2019年8月30日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局　島田晴子　　tel・fax　3960 - 3869

― 都心低空飛行問題について ―

○ 国交省強引な決定　民意無視の暴挙

７月３０日に国交省による副区長クラスの関係会議が開かれ、各区の意向を確かめたという。

それぞれの区に対しては市民団体や個人から、賛意を表明しないようにと緊急の要望が出されていたが、反対決議のあがっている区でさえ「丁寧な説明」をして欲しいと言っただけ。

説明はもう良い。決して丁寧でもなく、信憑性に欠けているから。私たち都民が望むのはこの愚案の撤回のみ。

しかし、これらのアリバイ工作的やりかたで、国交省は強引に大臣決定をしてしまった。８月２４日前後、大々的に全国紙に決定を発表し、既成事実を作り上げようとしている。

この決定を下した根拠は何か。明確に示すべきだ。説明会を開けば開くほど、住民の反対意見しか出てこないのに。

姑息にも試験飛行は小型機を使うそうだ。もちろん海外からの利用航空会社が効率の悪い小型機を使うとは思えない。セスナ機に観光客を乗せてロスアンジェルスから飛んでくるだろうか。

「世界に類を見ない」と胸を張っている騒音の高い飛行機には高い料金を課す、という制度もそれでも構わないと無視するだろう。どの航空会社が納得しているのか、実名で明らかにしてほしい。

大都市の頭上を最大限避けるのは当たり前の常識と思っていたが、日本は「世界に類のない」ことをしようとしている。インバウンドで儲けるために国民の健康や生命、財産を犠牲にしようというのだ。こんな国は滅多にないだろう。

これを推進する人達は、大惨事が起きた時に、すべての財産をなげうってでも責任を取る覚悟があるのだろうか。絶望的状態になる前に、この愚かさを何とか止めさせられないものだろうか。

○ 疑問多い板橋区の公共施設再配置計画

民間に公共空間を差し出していいの？

７月下旬、常盤台地区と前後して各地で公共施設再配置計画の住民説明会がありました。

本庁舎周辺では、本庁舎隣りの旧保健所跡地と北側駐車場部分を民間に提供し、民間が建てた建物に行政が必要な床を借り賃貸料を払うというのが特徴です。こうした民活方式（PFI）は、常盤台地域センターの建て替えでも予定されています。行政が必要な床だけでは建物が余るので、これを活用して建設費の平準化や財政節減を図るといいます。

これが財政節減となるかどうかも疑問ですが、区民からは、「必要な行政施設はもっとあるのではないか？」例えば、「区民が使用できる会議室が足りない」「区民活動団体が利用できるスペースを」「障がい者センターを」などの声が上がっていました。

とくに新南館建設の際、本庁舎から出された板橋福祉事務所は、本庁舎から離れたグリーンホールの区民用会議室をつぶして移転させられていますが、本庁から離れて利用者にとって不便だそうです。民間が建物につくるのは、高齢者住宅や学生寮、ドラックストアなどで区内に過剰にあるものばかりが想定されています。

区長選が終わったとたん、区民に説明もなく決めようとする姿勢が問題では。（M）

このひとにインタビュー（5）

常盤台の芥川賞作家　柴田翔　③

学生会が作った一九四六年当時の地図（「板橋区の近代建築」所収）を見ながら、用意して下さった「記憶の街角　遇った人々」（筑摩書房）からのコピーに沿って話を進めていく中で、幼時に通ったという習字塾の先生は日本書道美術館を作った小山天舟さんと判明した。空き地での草野球の相手は荻野さん兄弟、習字塾で知り合った巻き毛の女の子は小野沢さんと解った。質問者の兄も空き地での草野球にいたはずであった。昭和初期、終戦直後の常盤台の街並みと子ども時代が懐かしく立ち上がったようであった。

学生会の若者達と翔さんとは近い年代であったが、全く接触はなかったようだ。学生の頃は自分の勉強が精一杯で地域に眼が行かなかったのだろう、まして小説を書くのに夢中であれば。

しかし、翔さんにとって一歳半から二五歳まで過ごした常盤台は、まさしく懐かしい故郷であったと思う。

些細な事だが「わたくし」と自称するのが印象的だった。「わたし」でも「ぼく」でもなかった。不勉強でろくに著書も読んでいない質問者にも、真面目に誠実に応対して頂いた。

一時間半の予定が三時間になってしまった事を申し訳なく思いつつ辞去した。お連れ合いがバス停迄送って下さった。

柴田翔さんとの茶話会

今回のインタビューに関連したやりとりの中で、常盤台での講演会か茶話会を遠慮しながら打診してみたところ、天候や健康状態の様子を見て可能かも知れないと、少し希望が持てそうなお返事でした。実現すると嬉しいことですね。

寄付歓迎

Kさんから電話があり、わざわざ尋ねて来られ、ご寄付を頂きました。

景観を守る会の会計は、基本的には会員の会費三千円とバザーとで成り立っています。

毎年の大きな支出はニュースの紙代で、年に六万ぐらい、展示や講演会を催す時はそれなりの支出がありますが、バザーでご協力頂くし、何よりニュースの配布をボランティアでやって頂けるので、何とか廻っています。

とは言え、ご寄付は歓迎です。

常盤台の記事

「東京人」no.415と「週刊現代」8月24日の記事に常盤台が取りあげられていました。「週間現代」では土地の細分化を避けるため買い支えている篤志家の存在をどこか茶化しているような…

特に「東京人」では、他の田園都市構想で生まれた住宅街と共にとりあげられていますが、注目すべきはあの南宇都宮駅との関係に踏み込んでいることです。初めての記事ではないかと思います。

オリ・パラ不安

この暑さの中、来年はオリンピック・パラリンピックが行われるわけですが、毎日熱中症で死者が出ているので実に心配です。今からでも変更できないのでしょうか。

外国の観光客が優先で救急車で搬送され、日本人は後回し、となるのが「お・も・て・な・し」では困ります。

常盤台公園のはなづくり

連日の暑さで作業がはかどりません。

この時期困るのが蚊の襲撃ですが、或る人の言うには、蚊も日中はあまりの暑さにバテていて出てこないとか。実際に夕方は刺されますが、日中はどこかに隠れているようです。かといって炎暑のなかで草取りすると熱中症になってしまいます。

Tさんが不自由な足で座り込み、しつこい雑草をほとんど退治してくれました。感謝あるのみ。

ヒマワリの花びらやツツジの新芽が無残に食べられています。犯人はコガネムシというかカナブンというか、緑色の昆虫で、大量発生しています。これも異常気象の影響なのでしょうか。

公園は木が多いので、場所によっては日陰となり、反対にかんかん照りとなり、木のしずくで痛めつけられる所もあるのです。それぞれに適した花を選びたいとは思うのですが…